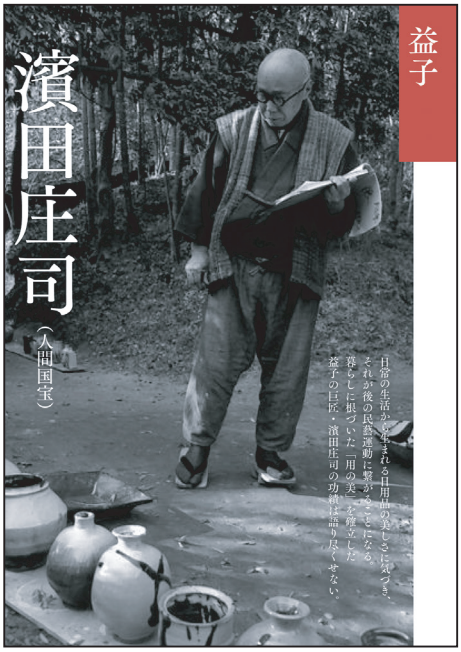
芸術書 ご担当者様　　2022年8月12日発行

至高の名陶を訪ねる 陶芸の美

美術ジャーナリスト　小林真理編著

人間国宝の巨匠から注目の若手まで、日本を代表する陶芸家52人の作品と人物を紹介！単なる作家名鑑でも作品集でもない、“日本の陶芸のいま”と、日本人の美意識がわかる本！



青釉格子描角皿　益子陶芸美術館

柿釉大鉢　益子陶芸美術館

「私の仕事は、京都で道を見つけ、英国で始まり、沖縄で学び、益子で育った。」とは濱田庄司（1894—1978）が語った言葉だ。名匠板谷波山の下で修行し、京都陶磁器試験場で河井寛次郎とともに釉薬をはじめとする陶磁研究を深め、柳宗悦の紹介によって知り合ったバーナード・リーチとともに英国セント・アイヴスで築窯して制作を始めた。ここでの生活スタイルに感銘を受けた庄司は、自然が残る田舎町で健康的な生活を送り、無理なく仕事をしながら創作活動を行う。

帰国後は英国での体験をもとに、栃木県益子に居を定める。益子は江戸時代末頃から鉢や土瓶、水瓶などを大量に生産し発展してきた民釜として知られ、庄司は生涯をここに過ごした。益子では杓によって大胆に模様を釉薬で描く「流描」の鉢、蝋の揮発性を利用する「蝋抜」の大皿や鉢、リーチとの共同作業で学んだピッチャー、模様を型押しする「紋打」の蓋物、火鉢など、活き活きとした器が数多く作られた。ほとんど手轆轤のみを使用するシンプルな造形と、釉薬の流描による大胆な模様を得意とした。

主な掲載陶芸家

【大御所】濱田庄司／島岡達三／加守田章二（益子）三輪壽雪（萩）井上萬二（有田）十三代・十四代今泉今右衛門（鍋島）鈴木藏／加藤 孝造（美濃）十三代中里太郎衛門（唐津）以上人間国宝／中里 隆【中堅】隠崎隆一／藤原啓（備前）柴田雅章（丹波篠山）神農巌（滋賀）兼田昌尚（萩）濱田友緒／竹下鹿丸（益子）見附正康（九谷）羽石修二（笠間）など

▼著者プロフィール
小林真理：美術ジャーナリスト、装丁家・日本図書設計家協会会長。主な著書：『漆芸の見かた』『能面の見かた』『画家のブックデザイン』など。

ご注文は FAX03-5280-9088

帳合・書店名	注文数	至高の名陶を訪ねる 陶芸の美　美術ジャーナリスト 小林真理編著
ご担当：	部	無料販促パネル　POP（ハガキ大）・A4判・A3判 ※必要あれば丸印を付けてください。 B5判変型・並製／208頁／本体価格3,500円＋税／ISBN 978-4-87586-650-3

芸術新聞社　〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-3-12／☎03-5280-9081（販売課）